

---

# 重役会議

夏氷/MDT128

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

重役会議

### 【Nコード】

N6875T

### 【作者名】

夏氷 / MDT128

### 【あらすじ】

とある町の謎の集会所の話。

ある小さな町にある、これまた小さな建物。

これは、町の役人たちが集会や会議として使うもので、今日も会議が開かれていた。

中には4人の中年の男たちが四角いテーブルの一邊ずつに座っていた。

どの者もけわしい表情をしており、みな額に汗をかいていた。

ある男はつぶやく。

「ここは対策を取らなければ……」

その隣の男もつぶやく。

「ここで一旦攻めるか、否か……」

その横にいる男もつぶやく。

「くそ、切った方が良いか」

男たちは個々にこう呟き、表情は一層けわしくなった。

この集会が開かれている間は、住民らは建物に近寄ることを堅く禁ぜられ、

反したものには罰金、ひどいと実刑が下されることもある。

そんなわけで、住民たちはここで何がなされているのか、誰がいるのかさえ

まるで知ることはできなかった。

住民たちも、そう深く関わろうとはしない。気にし出したらきりがないし、

まず解決するような見込みもないのだから。

ひそかに建物に盗聴器を装着した若者もいたが、たちまちばれて結局は収穫が無かった。

そうだったこともあり、彼らは集会に関しての話を住民間で一切しなかった。

ある日、町に都会から旅人が来た。

この日も集会が行われており、建物のまわりは閑寂としていた。

当然、旅人はその訳もわからず、建物の近辺を徘徊していた。

その時、建物から一人の男の感嘆の聲が上がり、更にその後

「ロン！」という叫び声が旅人の耳に聞こえたことは、住民たちは知るはずもなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6875t/>

---

重役会議

2011年10月9日04時13分発行